

2020年8月ブライアン カースカデン氏ウェビナー  
質疑応答

ウェビナーにご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。

ウェビナー中にご回答できなかったご質問に対し、以下の通りブライアン氏より回答を得ました。

沢山の質問ありがとうございました。

・200H11213 ドロップキックのカナダでの評判はどのようなものですか？

ドロップキックはカナダ国内でとても人気な種雄牛で、その結果として今現在カナダのブリーダーの牧場では素晴らしい産子がたくさん生まれています。娘牛達は体長があり、骨格が正確で、そして健康性に優れます。またスタイルにも富んでおり、仔牛のペニンの中でも他の牛達よりも際立って目を惹くことがあります。コロナウィルスが落ち着きショウが再開すれば、ドロップキック娘牛をたくさん目にするだろうと予想しています。

加えて、中にはハイゲノムを示す息牛あるいは娘牛も存在し、今後の Semex の遺伝改良の構想にも組み込まれるでしょう。

・カナダでは、ブリーダーの方達はソロモン娘牛に何を使用していますか？

カナダ国内でソロモン娘牛に最も使用されている種雄牛は、200H3913 ユニクスと 200H11127 クラッシュブルでしょう。ソロモンの特徴に対してどちらも好ましく働き、尚且つ能力も上げてくれます。

・自分の牧場に存在するショウカウのファミリーにおいて、ショウタイプを作出する能力が薄れたと感じたとき、搾り系の交配に転じることについてどう思うか？

・ショウカウのファミリーに搾り系の交配をすること自体、どう考えるか？

ショウタイプを作出する能力を失ってしまうということは、私としては決して起こらないと思います。何か変わってしまうとすれば、ショウリングで、或いはショウタイプを狙った交配で残念な、がっかりするような結果が生まれたときに、ショウタイプを作ろうという願望が変わってしまうことだと思います。

ショウで勝てる牛と、機能的な搾乳牛が一致するときほど強力なものはありません。そして、一つの牧場においてショウと搾乳どちらの部分も同時に改良できる種雄牛も存在します。Semex からも 200H3913 ユニクス、200H10641 ランドル、200H10661 アダージオ P、200H11091 スイングマン RED、200H10660 アドラブルといった素晴らしい種雄牛をご提供できます。こういった牛達は優れた体型と、搾乳メインの酪農家にも満足してもらえる能力・健康性を兼ね備えています。それと同時に、ショウで勝つ牛を作り出す能力も備えています。

・種雄牛を選ぶ際に、寛の位置についてどう考えられますか？

「寛の位置」は数年前に導入された新しい遺伝形質で (LPI のみ)、尻の得点の 24%を占めています。自分が行う交配の際には気にしていますし、仮に寛の位置の改良が必要な雌牛の場合は、平均以上の尻の数値を持ちながら寛の位置の数値が理想的な種雄牛を選びます。しかし、牛群として寛の位置に対し

て深刻な問題を抱えていない限り、寛の位置を主たる改良形質として重点を置く、ということはありません。

・正確な後肢構造と寛の位置、しっかりと立っている蹄から得られる恩恵はどのようなことがありますか？

乳牛が長く健康な生涯を送るには、尻と肢蹄の構造において機能的である必要があります。もし歩様に関する問題があれば、その牛は不受胎や不適切なボディーコンディションスコアといった問題も出てくるでしょう。そしてこれは最終的に、牧場の収益性の減少といった結果を導きます。

後肢後望が好ましくない牛は一般的に歩様に問題が現れやすく、牛群の中で長く生きられないことが多いです。後肢側望が好ましくない場合もまた問題が起こりやすく、長命性に欠けます。ホルスタイン種において直飛傾向が強くなっていることはここ数年問題になっており、Semexにおいても生産或いは購買する種雄牛の飛節角度を改善できるよう努めています。

蹄がしっかりと立っている牛は一般的に蹄病になり難く、削蹄の回数も少なく済みます。

寛の位置が好ましくない牛はハイピンになりやすく、且つ後踏み（後肢を後ろに投げ出すような立ち方）であることが多いです。そしてこれも、歩様の問題を引き起こすということがあります。

・SemexとしてはDWP\$とWT\$についてどのように考えていますか？今後力を入れていく項目でどうか？

Semexは全種雄牛のWT\$を検査しており、どんな方法でも病気を減らすということは必ず有益な事だと思います。

しかし、Semexとしては社内での選畜、そしてマーケティング（販売）のほとんどImmunity+を使用しています。理由はたくさんあるのですが、最たる理由としてはWT\$とDWP\$はアメリカでの病気の発症率に重み付けされているのに対し、Immunity+は環境に関係なく、全ての病気の減少に期待できるという点です。種雄牛あるいは雌牛の免疫反応システムそのものに着目することで、全ての病気に対する包括的な抵抗力を得ることができます。

・近交係数の高い種雄牛が増えていますが、種雄牛本牛の健康性とその娘牛の健康性に影響はありますか？

答えは「イエス」ですが、程度は限られるはずですし、その健康への影響は種雄牛成績に現れているはずです。近交系数の影響を考慮できるよう、成績の全ての数値は近交系数に基づき補正されております。

Semexも近親交配に対してより深い理解を得る為に尽力しており、ジェノミックにより近親交配を分析するとどんな特徴が見えてくるのか等、リサーチプロジェクトを展開しています。

・高い飼料効率と生産寿命のために、サイズも体積も中程度な牛が以前より注目されています。Semexもこの傾向は支持しますか？

いくつかの血統は、様々な飼養環境で問題を引き起こすくらいにホルスタインの体高を高くしてしまったので、Semexはこの傾向をとても支持しています。どの酪農家も、生産性を保ちながら餌の量を抑えたいというのは明白です。

Semex は体高のある種雄牛、低い種雄牛どちらも常に所有しておりますが、最近はどんな環境にも適用できるサイズ中庸、飼料効率の高いものを選抜する傾向にあります。同時に、理想よりも体高のあるハイタイプ ブルは今後も存在するでしょうが、ハイタイプながら体高を抑えた種雄牛を得る努力もしております。

・種雄牛の世代間隔はどれくらい短くなっていますか？

シーメックス所有の Boviteq (ボビテック) では、ドナーとなる雌牛に対して早くて 5~6 ヶ月齢のときに IVF を始めます。種雄牛が十分な精液の生産をできるのは 10 ヶ月齢以降です。こういった過程が完璧に進んだ際に、最も世代間隔が短くなります。